



鳥取城跡に関する講義



YEGメンバーにて

令和5年7月23日(日)鳥取お城委員会は、魅力的な歴史を持つ鳥取城跡・久松山を市民の誇りや守るべき存在とするために、また地元観光資源としての発信を強化し、鳥取城跡三階櫓の復元事業を後押しするため、ボランティア事業を実施しました。SNS等のメディアを通じて参加者を募り、当日はYEG会員と参加いただいた市民のみなさんに鳥取市文化財課の専門員による講義で鳥取城跡に関する理解を深めていただき、後のボランティア活動につなげました。

ボランティア活動では、参加者160名を5つの作業場所に分け、清掃班や整備班に分業して作業を進めました。暑い中での作業でしたが、参加された方々からは、「有意義な市民活動ができた」、「作業を楽しめた」等々のお声をいただくことができました。

この事業で委員会メンバーは鳥取城跡のボランティア事業の重要性を実感し、鳥取YEGビジョンであるシビックプライドの醸成へとつながったと考えます。

今後鳥取お城委員会は行政と協力し、鳥取城跡の保全や清掃整備に取り組んでいくことを目指していきたいと思っております。

鳥取お城委員会 委員長 岸本夕子

**鳥取城跡・久松山の清掃・整備ボランティア活動実施**



勉強会



会場の様子

令和5年7月28日(金)19:00から21:00まで、「社会に選ばれるブランディング戦略とは」というテーマで、本質的なブランディングについて学ぶオープン委員会を開催しました。人材教育コンサルティング会社のアチーブメント株式会社の講師による講演、シェア会、そして質疑応答のプログラムを行いました。

表面的なテクニックでなく、本質的な考え方や仕事、さらにはYEG活動に対する向き合い方を見直す機会となりました。YEG活動を事例に挙げると、本質的なブランディングは、組織を単にアピールすることではなく、参加者自身が真剣に事業に取り組んでいるか、YEGの価値を自ら語っているかという視点に立ち返ることが重要であることが示されました。

イベントに参加した質疑応答の内容と会場の雰囲気からは、経営者たちが直面する社長と社員の目的や目標の違い、そしてその中にある熱量の差が課題として感じられていることが明らかとなりました。また、このテーマに対する関心の高さも浮き彫りになりました。

また、YEGの理事と会員といった立場の違いにおいても同様の課題が当てはまると感じました。

このオープン委員会は、本質的なブランディングの重要性を再認識するとともに、参加者が自身の活動やビジネスにおいて真の価値を發揮し、共に成長するための機会となりました。今後このような勉強会を計画しております。

広報ブランディング委員会 委員長 太田哲平

**ブランディングを学ぶオープン委員会開催**



傘踊り



集合写真

令和5年8月14日(月)に開催された「第59回鳥取しゃんしゃん祭」一斉傘踊りに鳥取YEG連として踊り子33名、スタッフ10名の計43名のメンバーで参加してまいりました。

今回は会員だけでなく、会員ご家族の皆さまにも踊り子としてご参加いただき、練習会当初から参加者メンバー同士で楽しく、絆を深めながら本番当日を迎えることができました。

4年ぶりの市街地開催ということもあり、若桜街道をはじめとした市街地周辺は多くの市民の皆さままで溢れ返っていました。その中で、参加メンバー全員が一丸となって声を出し、元気に踊る姿を市民の皆さまに披露し、鳥取YEGを大いにPRすることができました。来年も鳥取YEG連として参加し、より活気のある踊りで祭りを盛り上げていきたいと思っております。

最後となりますが、ご参加いただいた踊り子・スタッフ関係者の皆さま、事業運営に携わっていただいた関係者の皆さま、本当にありがとうございました。

会員交流委員会 委員長 荒川恵介

**第59回鳥取しゃんしゃん祭 一斉傘踊りへの参加**

**鳥取 YEG 通信**

TOTTORI YOUNG ENTREPRENEURS GROUP  
 発行:令和5年9月15日  
 鳥取商工会議所青年部  
 広報ブランディング委員会  
**鳥取商工会議所青年部通信**



鳥取商工会議所青年部  
 会長 **井上 直樹**  
 株式会社 井上機械

■令和5年度  
**会長あいさつ**

このたびの台風7号において被災された皆様、並びにご家族の皆様にご心配をおかけし、誠に申し訳ございません。危険な事態にご苦労も多かったこととは存じますが、皆様の安全と被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

さて鳥取YEGは、8月10日にビジネス委員会担当の講師例会を行いました。会員企業が商売をしていく上で更なる発展を目指すには、どのような講演が心に響くのかを検討された結果、同じ鳥取県の中小企業から、世界に羽ばたくブランドを確立されたYVOSの山本敬様の経験や今後の戦略をお聞きしました。

雑誌の売れっ子カメラマンから、故郷の倉吉市で六畳一間の事務所から起業した山本様は、自社の企業理念である「創る、造る、売る」をテーマに、ミラノで行われる世界的靴の見本市であるミヘルへの出展も念頭に、イタリアに拠点、中国にサンプル工場を作り他社ブランドのOEM生産も引き受けて開発力をつけ、現在では自社ブランドを直営店のみならず、テレビやECサイトで販売しているという話がありました。

ユーチューブやSNSも活用しBtoC(企業対消費者取引)に積極的に移行し

て絶対価格の考え方や、通販では細かな販促の仕掛けを行っており、顧客づくりにも注力していることをお話しいただきました。

ヨーロッパの田舎は人口減少に悩んでいる地方が少なくみんな豊かだそうです。いいものに付加価値をつけて商売をしており、日本もそうすべきで「地方で貧しく」ではなく、「地方で豊か」に暮らすことが大切という言葉に、我々の目指しているビジョンCVCV PRIDEにつながるころがあると感じました。

8月12日には本通り商店街で4年ぶりに歩行者天国にて開催された土曜夜市にて、麒麟獅子を活用し中心市街地の活性化を目指した事業を行いました。

空き店舗の増加が目立つ中心市街地に賑わいを取り戻すため、郷土独自の伝統文化であり、鳥取YEGでもここ数年事業に組み込んできた麒麟獅子舞を地域活性化のコンテンツとし、設置した舞台上で演舞を披露していただきました。当日は、沢山の人がにぎわい、中心市街地の魅力も再発見でき、また最後YEGメンバーで本通り商店街の清掃を行う事で、参加メンバーも中心市街地に愛着を持つことができたと感じています。

8月14日には夏の鳥取の風物詩しゃんしゃん祭りにも参加し、4年ぶりの中心市街地開催で沿道に観客がいる中で踊れる楽しさを味わってきました。このように地域の祭りやイベントに参加することで、中心市街地の活性化や、地域貢献の一翼も担えると考えています。

鳥取商工会議所青年部は、これからも市民が誇れるふるさと鳥取を目指してまいります。

**8月ビジネス委員会担当例会開催**



会長挨拶



講演会の様子

令和5年8月9日(水)ビジネス委員会が担当する8月例会が商工会議所大会議室で開催されました。今回は株式会社バルコス 代表取締役 山本 敬様を講師にお招きしました。

鳥取県を代表する企業で、県内でも数少ない上場企業であるバルコスの過去から現在に至るまでの歴史や、衰退していく業界ならではの展開や、企業がどのような経済戦略で成長していくのかなど、多岐にわたる内容のご講演をしていただきました。

現在では多角的な経営で様々な分野で活躍し、その事業展開は会員たちに新たなビジネスへのアイデアや考えにつながります。また、鳥取県内の企業が成功を収めるためには、どのような戦略が必要かについても示唆されました。

今回の講演により、会員は地域経済の活性化や新たなビジネス展開の方向性について深く考える機会を得ることができ、鳥取の未来に新たなアイデアや知恵、地域経済の発展に一層の貢献をすることが期待されると思っております。

ビジネス委員会 委員長 池上裕樹